

まちの話題



白壁レディース 21 元気に活動中!

白壁レディースは、1993年、女性の視点をいかしてまちづくりに参加できればと発足。子育て講座や江戸時代に地元で灌漑事業を完遂した「五庄屋」の偉業を紙芝居で紹介する活動などを続けています。現在、平均年齢70歳の女性19人で元気に活動中。

この度、京都芸術センターが、20周年を迎えるにあたり、時間の積み重ねに思いを馳せ、「誰もが歳をとる」という当たり前のことに改めて向き合うべく、年間のテーマを「We Age (ウィー・エイジ)」とし、65歳以上の方を対象に「ロック」「映像」「ファッション」「パフォーマンス」の分野から公演・展示プランを募集しました。京都在住の五山智博氏が「うきは City Days」・「TOMORROW」の2作品を応募し見事入選。「うきは City Days」は白壁レディース21が企画し五山氏が監督を行いました。応募に際し五山氏はうきはの未来をと「TOMORROW」も制作しました。



展示されている映像をみているお客様 (上)

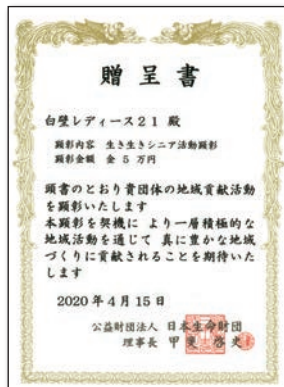
京都芸術センター (左)

このミュージックビデオは、高橋代表と親交がある五山智博氏 (作詞)、小郡市の故富永浩氏 (作曲) が担当。うきは市を訪れた交際中のカップルが結婚し、市内で暮らすというストーリー。市内の名所などが登場する歌詞をいかし、白壁の町並みなど10か所ほどで撮影。振り付けも考案し、メンバーのほか地元の子どもたちも登場して、元気に踊っています。

◆YouTubeで検索 「うきは City Days」 <https://m.youtube.com/watch?v=EZpvq8Fev5M>



「五庄屋」の紙芝居を披露する様子



また、公益財団日本生命財団から、「生き生きシニア活動顕彰」も受けています。

※「生き生きシニア活動顕彰」とは

少子高齢社会を迎えた日本では、元気で活力に満ちた高齢者の地域貢献活動が注目されており、高齢者が主体となって行う地域貢献活動に対して、都道府県知事の推薦に基づき日本生命財団が顕彰するもの



浮羽工業高校「モルタル版」寄贈

10月12日、浮羽工業高校の3年生がるり色ふるさと館へ「博多堀風モルタル版」の寄贈を行いました。

豊臣秀吉の侵攻で失われた土堀を修復するため生まれたリサイクル堀「博多堀」の技術を現代に蘇らせた、また、SDGsの一環として「不要なものから価値のあるものを生み出す」という先人の知恵を活かして生徒達に「実践的なものづくり」をしてほしいとの思いから作製に至ったとのこと。

今回寄贈して頂いたモルタルは39枚。(1枚約11~12kg) 昨年の実習から作製を始め、当時の3年生と2年生、総勢21名で作りました。

3年生の吉瀬海翔さんは「2年生のときから取り組んでいます。自分たちでデザインし、拾ってきた川石や廃瓦などを、電動カッターで加工したり、床版の場合はつまづかないよう、1~3mmの出っ張りになるよう、全部測ったりして作るのが大変でした。」と語ってくれました。